

## 世界遺産へ向けて

### 江戸時代の白山参詣ガイドマップ

#### 白山参詣図の絵解き

ー白山市白山文化フォーラム開催ー

2月21日に白山市で「白山禅定の絵解き文化」と題したフォーラムが開催されました。写真や映像が無かった時代、すべての人が文字を読めたわけでは無かった時代、白山への参詣について分かり易く伝えるのに有効であったのは、絵図でした。

講演会では、加賀側に伝わる絵図をもとに詳しい解説があり、約200人の参加者は、熱心に聞きっていました。

平泉寺白山神社に伝わる境内絵図も、参詣者にかつての境内の様子を伝える貴重な絵画であったと言えます。



## 白山麓の魅力を勝山で体感

### ①. 白山麓の民俗芸能

#### 尾口の人形浄瑠璃 勝山初上演

### ②. 日本中世史・日本女性史研究の第一人者

#### 脇田晴子先生 講演

日時： **平成22年3月20日**

午後1時30分～午後3時45分

場所： 勝山市教育会館1階ホール

内容： ①重要無形民俗文化財

尾口のでくまわし 上演

②講演 脇田晴子氏（石川県立歴史博物館長）

テーマ「白山の比咩神と平泉寺」 ※最新の平泉寺発掘出土品も展示します。



答え **ばんどこ** しゃく谷石をくり抜いてつくった行火。寒い冬に使っていた寝床用の暖房具。

ほっくと  
いっぶく

## 平泉寺こぼれ話 ー第17話ー

### これは何でしょう？



#### ヒント

- ①. 両手で持てる大きさである
- ②. 石をくり抜いてつくられている
- ③. 窓が幾つかあけられている
- ④. 中にはこげた跡がある
- ⑤. ふたがある
- ⑥. 上から見るとローマ字の「D」の形に似ている
- ⑦. これと良く似たものが、戦前頃まで使われていた

答えは最下段↓

国史跡平泉寺の整備情報誌

# 平泉寺かわら版

No. 17 (2010年2月号)

【発行】 勝山市教育委員会 史蹟整備課

【発行日】 平成22年2月25日

【ご意見・ご要望は下記まで】

電話： 0779-88-8113(直通)

メール： shiseki@city.katsuyama.fukui.jp

白き神々の座 霊峰白山

白山の信仰はなぜ全国各地に広がったのか



## 今号の内容

特集： 各地の霊山  
ー神々の宿る山ー

連載： ★世界遺産へ向けて  
★平泉寺こぼれ話 ～第17話

勝山市鹿谷町から望む白山。  
春になると白山の雪がとけて、平野部をうるおし、恵みをもたらしてきた。こういった白山の信仰を背景に平泉寺は大きな宗教勢力に成長した。

# 各地の霊山 — 神々の宿る山 —

鳥取県 伯耆大山



## 日本を代表する山岳修験の霊場

ほうきだいせん

伯耆大山は、鳥取県と岡山県にまたがる標高 1,729m の霊山。その姿・形から古くより神々の宿る聖地と考えられ、地域の信仰をあつめてきた。

中世には、白山とともに日本を代表する山岳修験の霊場となった。



信仰の拠点 大山寺

## 東の平泉寺、西の<sup>だいせんじ</sup>大山寺

大山の登り口に開かれた天台宗の寺院。養老年間（717～724年）に開かれたと伝えられる。中世には最盛期を迎え、およそ 160 の僧坊と約 13000 の僧兵を数えたという。近年の調査では、標高 700～800 m の山中から階段状に造成された多数の僧坊跡が確認されている。

また、大山寺に伝わる絵図から、白山社の存在したこともわかっている。

霊峰 白山



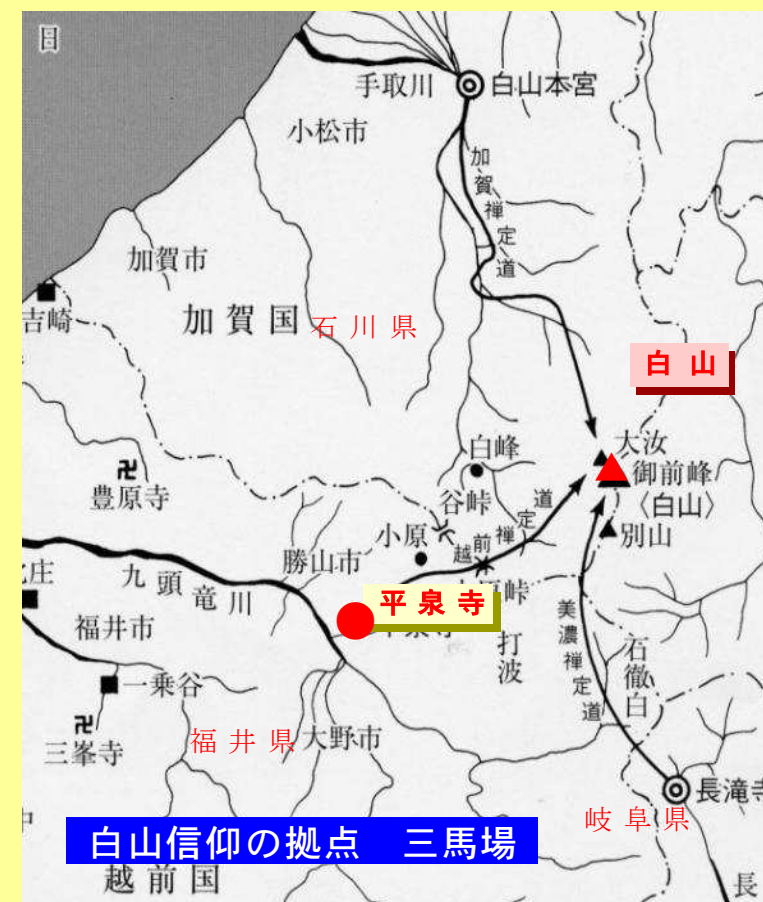
信仰の拠点 平泉寺

## 白山信仰の中核をなす平泉寺 大山寺や慧日寺にも白山社

白山の南西側の登り口に位置する平泉寺。古代から中世には、白山を開山した泰澄ゆかりの寺院として、白山信仰の中核寺院へと成長した。

全国に二千七百社あるという白山社の信仰の源流は平泉寺につながるという。

では、なぜ白山信仰が全国に広まったのか。このことについては諸説あるが、比叡山の山王信仰と結びつき、鬼門（北東方向）をまもる鎮守として全国各地に勧請されていったことも考えられる。



白山信仰の拠点 三馬場

福島県 会津磐梯山



## 東北地方の霊山

あいづばんだいさん

会津磐梯山は福島県にある標高 1,819 m の霊山である。会津富士（あいづふじ）とも呼ばれ、古くから信仰を集めてきた。その登山口に位置するのが慧日寺である。



信仰の拠点 慧日寺

## 発掘調査・整備の先輩 <sup>えにちじ</sup>慧日寺

慧日寺は平安時代初めに徳一という僧によって開かれた。最盛期には寺僧 300、僧兵数千、子院 3800 を数えたという。

近年、国史跡内の発掘調査・史跡整備が進み、写真のような金堂も復元されている。現地に残る絵図から、この建物に隣接して白山社が存在していたこともわかっている。

## 越前<sup>えちぜん</sup>禅定道<sup>ぜんじょうどう</sup>探訪記 その5

### 禅定道沿いの明確な中世遺構 法音寺跡

稚児堂跡からしばらく登ると、中の平避難小屋に到着する。ここから、法恩寺山頂に向けて直線的に登山道がのびる。山頂まではおよそ 1 時間。スキーコースの中を通る部分もある。

法音(教)寺跡は、標高 1,356m の法恩寺山頂の手前約 200 m にある。周囲を土手や石垣で囲まれた 20 m × 30 m の平坦地には、室跡と考えられる建物の礎石も散見される。法恩寺の名前の由来については、泰澄が白山を開くにあたり、この地に立ち寄ったところ、翁の読経(法)する声(音)を聞いたことから名付けられたという。



法音寺跡